

庄内地区 タウンミーティング開催報告

【日 時】令和6年9月13日（金）19：00～20：30

【場 所】庄内公民館

【参加者】地域：13人（庄内地区連合自治会長など）傍聴：7人

市：3人（市長、教育長、庄内公民館長）

【テーマ】これからの庄内地区の教育環境について

概 要

庄内地区の教育環境について

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
市内小中学校の「学校規模の適正化」について検討が始まったが、地域としては小学校を残したい気持ちがある。 庄内地区では、命について考える集会など地域独自の行事もあり、他の学校と統合した場合、こういった行事の対応をどのようにしていくかが課題である。 市の方向性について現時点での状況を知り、地域がどのように関わることが望ましいのか考えたい。	20名で構成される学校適正規模適正配置等審議会にて、計7回の審議会を予定している。 これまでの審議会で考えられた基本方針案では、小学校における望ましい学校規模は、1学年2学級以上で、維持すべき学級規模は、1学年1学級の場合、25人程度が望ましいとされている。また、通学距離は、おおむね4km以内を基準としている。 今後10年間の計画案では、過小規模校の解消を目指し、適正な範囲として1学年1学級、1学級25人程度を確保することが求められている。 中学校の今後10年間の計画案では、1学年3学級以上で専科の教員を配置できることが適正な規模とされており、最終的には1学年4学級以上が望ましいとされている。通学距離の基準は、おおむね6km以内とされる。 一方、保護者及び教員を対象としたアンケートでは、今の学校規模を望む回答も一定数あったことから、小規模特認校など多様な学校のあり方を検討する。 当然形が変わったとしても、庄内小学校の伝統文化は守っていくべきものとする。
学校規模適正化について具体的なビジョンは持っているのか。	今後、審議会から出される答申をもとに協議する予定である。
小規模特認校はどのような条件であれば認められるのか。行政の方で決まっていれば、教えていただきたい。	小規模特認校の検討にあたっては、（学校統合が困難など）地理的要素も含まれる。児童数や生徒数が少ないので、設置の際には、様々な地域から通学を認めることになると思う。 学校運営においては、小規模校ならではの特色や、PTAや地域の方々が参画し、支援していただくことも必要になると思う。
特認校の設置において、地域の熱意や地理的な条件というのが大きな要素となるようだが、現在市の方針はあるのか。	まずは、市内の学校を選んでもらうという取組みをしている。令和6年9月からフィリピンで英語の指導などをしてきたネイティブの先生をALTとして迎え入れており、段階的に今後増員予定である。 また、英語教育の推進による市外からの移住の増加も期待している。
「英語で移住」は素晴らしい試みだと思うが、移住地域が一極集中するのではないか。 また、子どもたちの英語力が向上し、将来的に英語を武器に海外に出ていくようなことにならないだろうか。 長期的なビジョンがあればお聞かせいただきたい。	西条市に高等教育機関がないため、チャレンジしようとして一度市外に出ていくことはやむを得ない。 しかし、将来、帰ってきてもらえるように、魅力あるまちづくりに取り組んでいく。

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
子どもの英語の勉強が大変で、家庭学習の大半を英語に費やしている。 小学生の頃から英語に触れる環境で学べることは、非常にいいと思う。	英語力が身につくことで自信がつき、さらに他の教科への相乗効果が期待でき、また教員に対する刺激にもなると思う。
統廃合によって、教員の定数等が変化していくと思う。答申の中で出てくるかと思うが、教員数は計画の対象に入っていないのだろうか。 音楽等の科目を専科でない先生が教えることは、子どもたちにとって良い教育環境とは言えないので、学校規模に関わらず配置していただきたい。	教職員の定数は、県が学級数に応じて決定する。全国的に教員不足の傾向にあり、市内の学校においても、専科の先生がいない場合があることを認識している。 今後、適正化等の話が進むにつれて、教員の数も学級数に基づいて割り出され、明確になっていくのではないかと考える。
子ども達には、地域の思いが受け継がれていくよう庄内地区についてしっかりと理解し、市外に出ても、帰るふるさとがあるという自覚を強く持って生きていってほしい。 学校教育は、地域の幸せに繋がる、とても大事なことだと思うので、そのことを忘れずに進めていただきたい。	郷土愛を育む教育を続けていかねばならないという思いがあるので、これから心に留めて取り組んでいきたいと思う。 子ども達や保護者にとって、教育環境はどうあるべきか、学校教育とは何かということ問いながらということに尽きると思っている。 特徴あるいは、西条らしさ、教える側の喜び、子どもたちの感受性など、数字には表れない部分の重要性を理解しながら、総合的に対応していきたい。
民間のバス会社が登下校の時間帯のみ、通学バスを運行している地域もあるようなので、既存のインフラを上手く活用する方法を考えていただきたい。	通学バス導入の際は、通学以外の時間帯には地域の皆さんに利用いただけるような方法も検討していきたい。 また、タクシー事業者の理解が必要ではあるが、二種免許がなくても有償交通が可能な動きになっていることについても検討していきたい。
その他	
庄内、三芳、楠河、国安、吉岡地域の多くの高齢者は、丹原地域の医療機関に通院している。 今回の再編では、移動が東予地域内に限定されているため、自宅から丹原の病院に行くには、バスへの乗り換えが必要で、時間的に厳しい。 今後、改善策を早急に検討してほしいと考える。 また、なぜ東予地域限定の運行となったのか理由を説明していただきたい。	タクシー事業者の協力により、東予地域にもよりそいタクシーを導入した。 地域エリア限定であるため、利用者が不便に感じることもあるかもしれない。 利便性向上のためには、今後新事業者の参画も検討していく必要があると考える。 まずは、バスとよりそいタクシーを組み合わせで考えた案としてスタートさせていただくが、今後様々な意見をいただき、改善に努めてまいりたい。